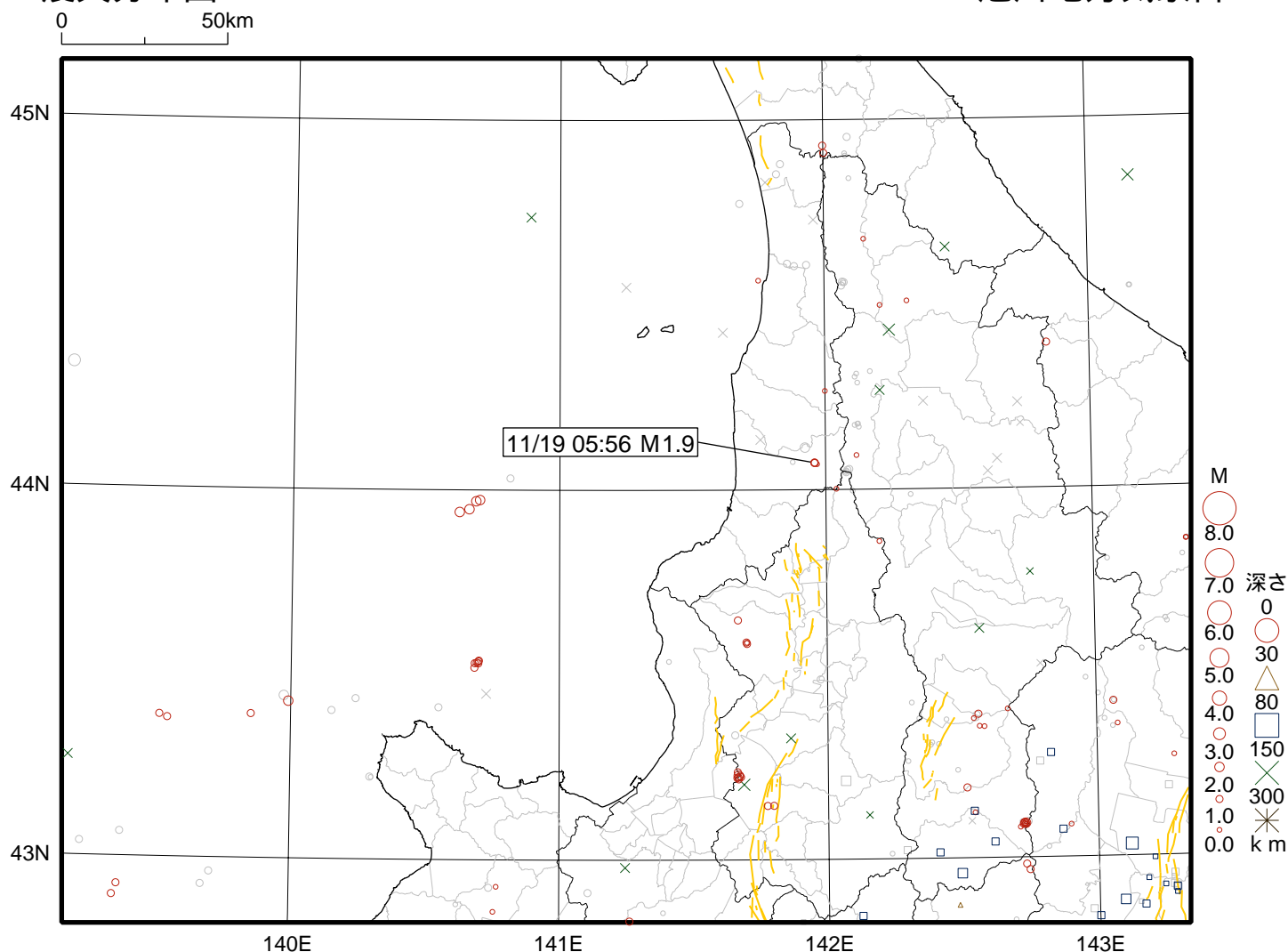


上川・留萌地方の地震活動図

2021年11月1日～2021年11月30日

震央分布図

旭川地方気象台



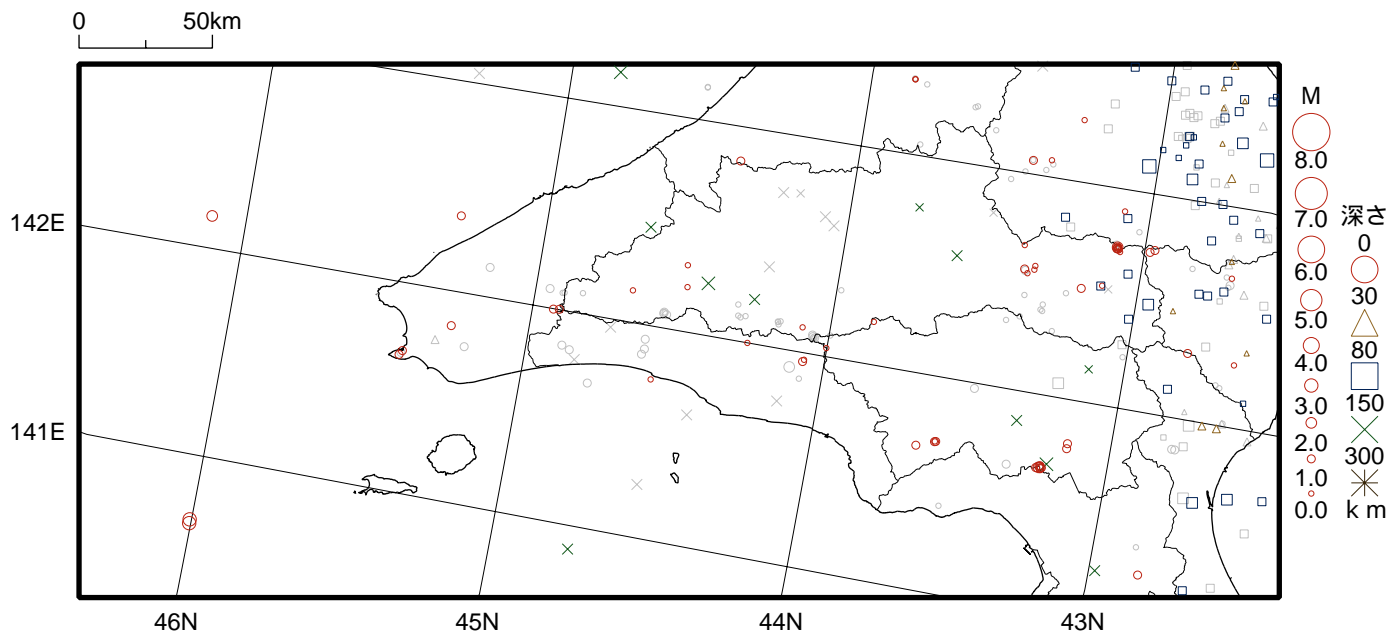
地震概況（2021年11月）

この期間、上川・留萌地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は1回（10月は3回）でした（「上川・留萌地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

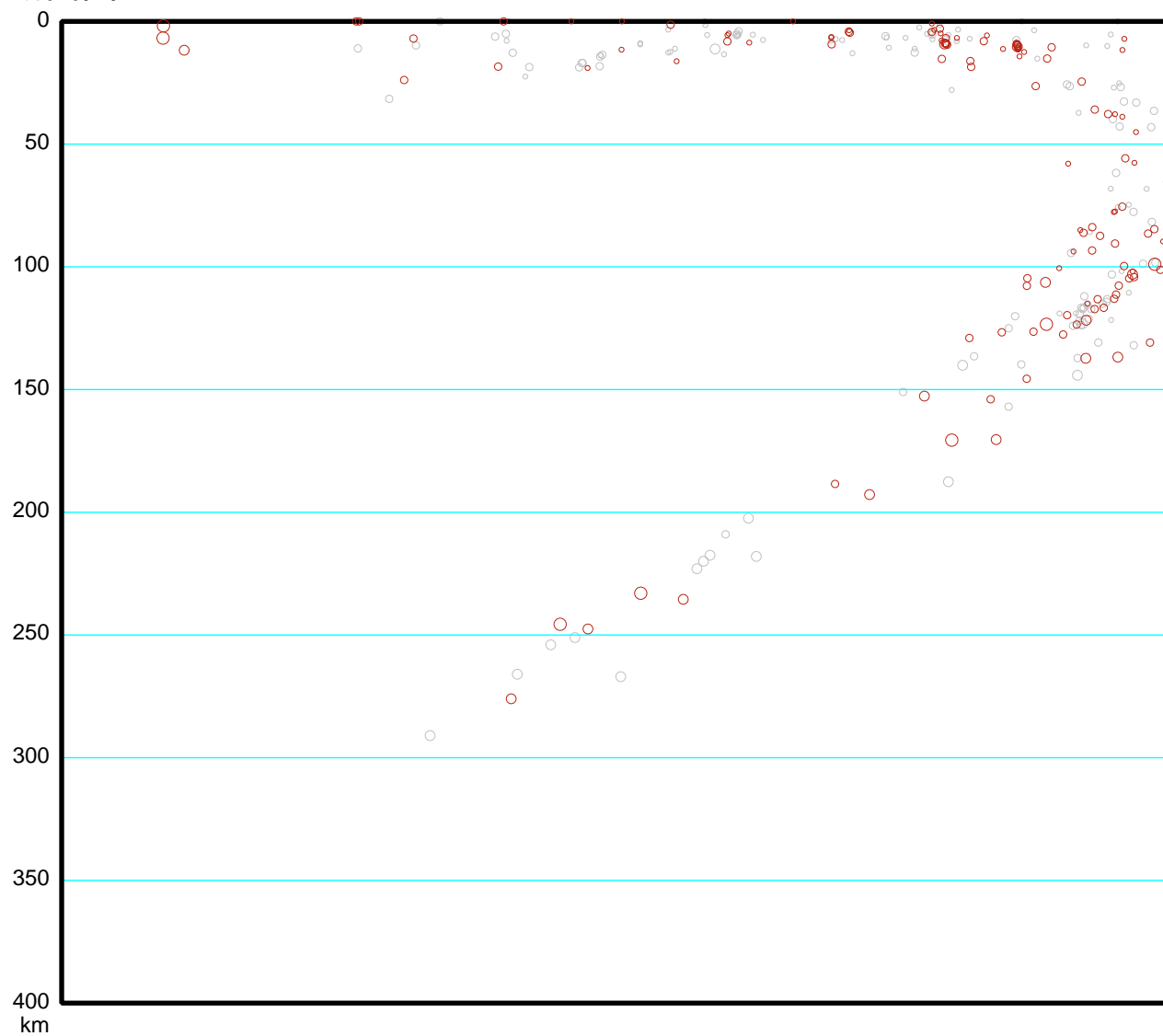
19日05時56分、留萌地方南部の地震（M1.9、深さ8km）により、小平町で震度1を観測しました。

2021年11月1日 ~ 2021年11月30日

震央分布図



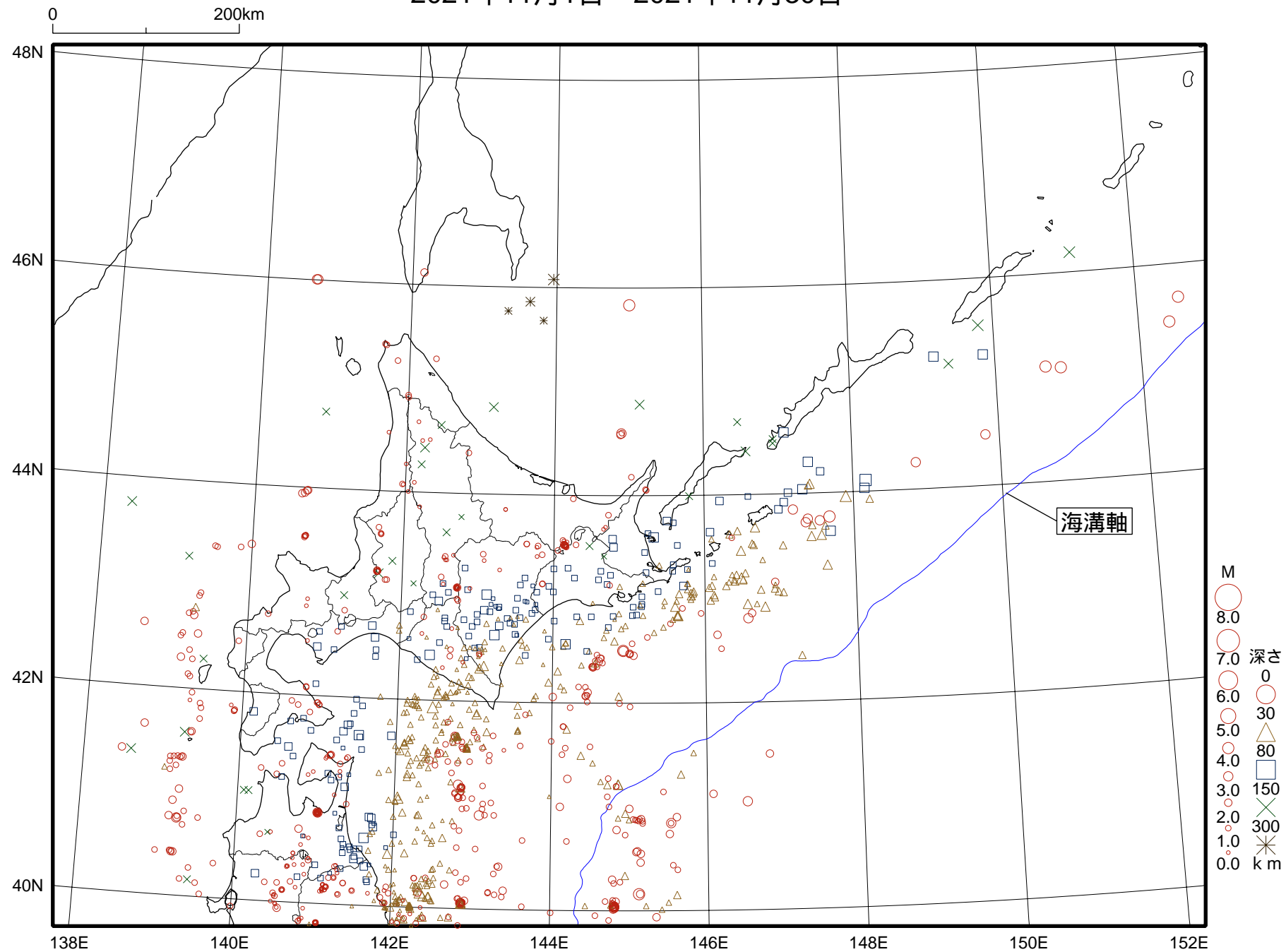
断面図



北海道の地震活動図

2021年11月1日 ~ 2021年11月30日

震央分布図



上川・留萌地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2021年11月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2021年11月19日 留萌地方	05時56分 震度 1	留萌地方南部 小平町達布* (09)	44° 04.3 N	141° 57.5 E	8 km	M1.9

*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

()内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料の利用にあたって

- 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあり
- 次の期間の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以外の期間と比較して微小な震源決定数の変化が見られることがあります。
2020年9月1日から10月23日まで、2021年1月9日から3月7日まで、2021年4月19日以降
- 2020年9月以降の地震は、それ以前と比較して、処理方法の違い等により、震源の見かけ上の位置や震源決変化が見られることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。
- 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表し
- 過去の地震と比較するため、前3ヶ月 (今期間を含まない) の震央を灰色のシンボルで表し
- 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000 (行政界・海岸)』を使用しています (承認番号平29情使、第798号)。

【防災メモ】

～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています。日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、大きな力がかかり岩盤にひずみが蓄えられます（図1）。そのひずみが限界に達したとき岩盤が急速に動き地震が発生します。

地震は、海溝沿いでプレート境界や海のプレート内部で発生する地震（海溝型地震）のほか、陸域の浅い所でも発生します。この地震を「陸域の浅い地震」と呼びます（図2）。

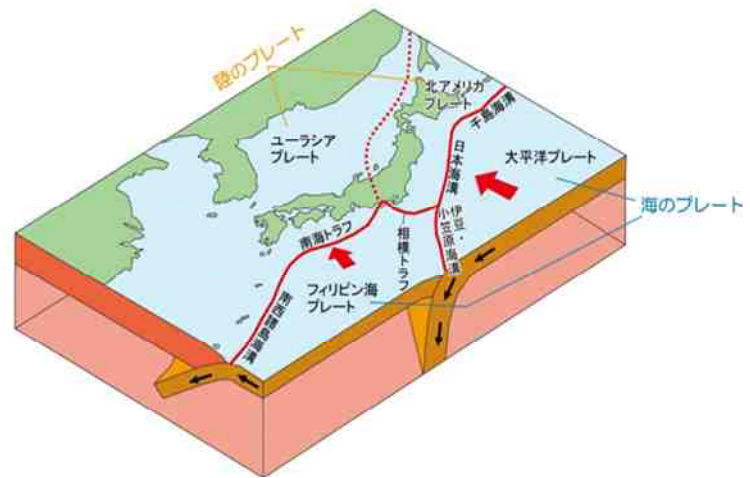


図1 日本列島周辺のプレート

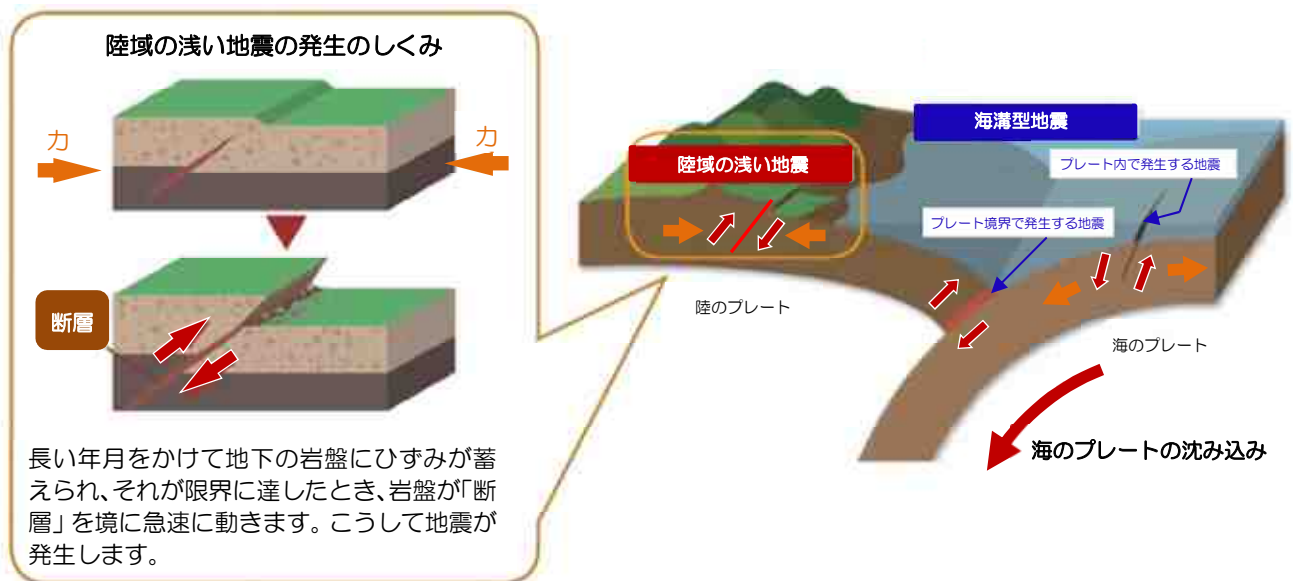


図2 日本列島周辺で発生する地震のタイプ

「陸域の浅い地震」は人の住む地域に近い場所で発生する可能性があるため、地震の規模（マグニチュード）が比較的小さくても局所的に強い揺れを伴う場合があります。また、震源に近い地域では緊急地震速報より先に強い揺れが到達してしまうこともあります。「平成30年北海道胆振東部地震」もこのタイプの地震で、この地震により甚大な被害がもたらされました。このような地震はいつでも発生してもおかしくないため、突然の揺れを想定して日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認をしておきましょう。